

# 未来館

福島県男女共生センター広報誌

2023  
SUMMER

vol.

# 85

# News



特集 / 令和4年度 地域課題調査・研究事業

当センターでは、男女共同参画社会の形成の促進を目的とした研究を公募し、その成果・提言等が福島県をはじめ男女共同参画の推進に寄与すると認められるものに、委託事業により費用の一部を支援しています。

令和4年度に採択された事業内容についてご紹介します。

## 「福島県浜通りに居住する女性高齢者の災害時の避難行動意図に関する調査研究」

福島県立医科大学 保健科学部作業療法学科  
講師 浅尾章彦さん



### 調査の目的

福島県は、東日本大震災以降も台風による大雨洪水や複数の地震を経験しており、今後も自然災害への備えが求められる。自然災害に対しては、平常時、災害発生初動時、災害発生後の避難生活、復旧・復興時と経時的な段階に応じた防災や復興を検討する必要があるが、災害発生後の避難生活では避難所の環境をどのように整備するかが重要なテーマのひとつとなる。女性、とりわけ高齢女性は避難所生活において様々な不便さを強いられる可能性があることから、内閣府男女共同参画局は、「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～(令和2年5月)」を公表しており、その中には避難所の環境整備のためのチェックシート\*1が含まれている。

- ※1 避難所チェックシート(災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～)
- チェックシートを用いて、女性のニーズを考慮した避難所の環境整備が行われているか点検することができる。
  - チェックシートの領域と項目数
    - ①避難所のスペース(26項目)、②避難所の運営体制・運営ルール(9項目)、③暴力防止・安全の確保(6項目)、④衛生環境・感染症予防(5項目)、⑤在宅避難者を含む指定避難所以外の避難者への支援(4項目)の合計5領域50項目から構成される。
  - 避難所チェックシートは内閣府男女共同参画局のホームページから誰でもダウンロードできる。

近年では、避難所運営において要配慮者女性のニーズに対応することが注目されつつある。要配慮者とは、高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦などが含まれる。例えば、大雨災害が発生した場合、自治体は緊急安全確保や避難指示に先行して、警戒レベル3高齢者等避難を発令する。そのため、高齢者は災害発生早期から避難所を利用する可能性があり、特に女性高齢者への配慮をした避難所の整備や運営を行うことが必要である。

多項目から構成される避難所チェックシートの中から、女性高齢者が特に重要だと認識する内容を把握することで、効率よく避難所環境の整備ができると考えられる。

そこで、本研究では、福島県相双地域沿岸部に居住する高齢女性を対象に避難所環境に関する意識を調査した。調査地域の選定理由は、東日本大震災の地震津波災害による避難経験を踏まえて、女性高齢者にとって重要な避難所環境を抽出できると考えたためである。

### 調査の方法

福島県相双地域に居住する高齢者を対象とした。市町村が公表する津波ハザードマップにおける浸水想定地域内の通いの場\*2の活動や公民館等での運動教室に参加する女性高齢者を調査対象とした。無記名の自記式質問紙を用い、回答者の属性や避難所の環境に関する意識などの回答を得た。避難所の環境に関する意識については、避難所チェックシートの4領域(指定避難所以外の避難者への支援を除く)の46項目の内容について、とても重要である/やや重要である/あまり重要でない/全く重要でないの4段階で回答を求めた。

#### ※2 地域の通いの場

- 通いの場は、年齢や心身の状況等によって高齢者を分け隔てることなく、誰でも一緒に参加することができ、介護予防などの地域住民が主体的に取り組んでいる場所である。
- 令和元年時点で53市町村(全体の89.9%)、総計2,233カ所の通いの場がある。
- 福島県内の通いの場では、公民館などで介護予防を目的とした体操、茶話会や趣味活動などが行われている。

### 回答者の属性

本報告では、避難所の環境に関する意識について有効な回答が得られた女性70名のデータを提示する。回答者の属性は表1に示す。

表1 回答者の属性

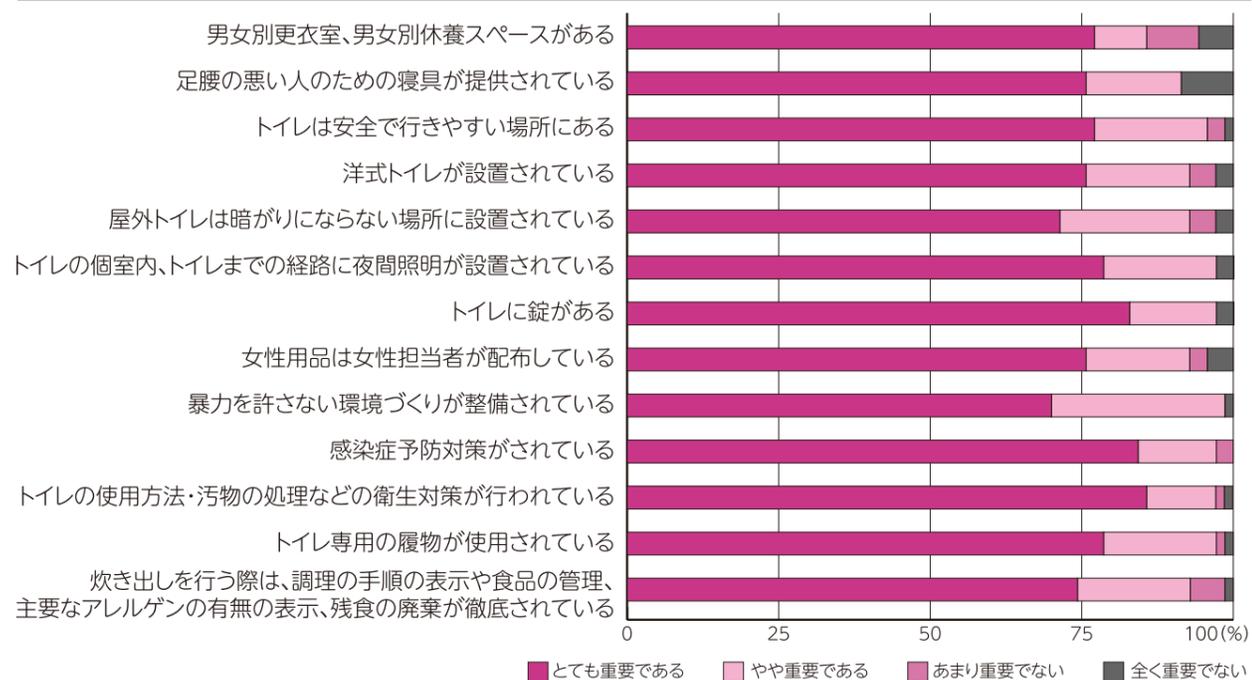
		度数	%
年齢	60代	5	7.1
	70代	34	48.6
	80代	29	41.4
	90代以上	2	2.9
介護保険	非該当	67	95.7
	要支援1または2	1	1.4
	要介護1以上	2	2.9
外出手段	歩行(杖や歩行器を含む)	10	14.3
	自転車(電動自転車含む)	1	1.4
	バイク(原動機付自転車含む)	2	2.9
	自動車(同乗含む)	57	81.4
家族の人数	1人(独り暮らし)	14	20.0
	2人	25	35.7
	3人	14	20.0
	4人以上	17	24.3
避難所の利用経験の有無	あり	48	68.6
	なし	22	31.4

結果と考察

避難所環境についての意識では、回答者の半数以上がとても重要であると回答しており、回答者の7割以上がとても重要であると回答した項目を表2に示す。避難所環境について回答者が重要と感じているのは次の3つに分類できた。①男女別スペースや女性用品の配布など女性への配慮に関する項目、②トイレや寝具などの加齢による身体的および生理的な変化に関する項目、③衛生や感染予防に関する項目である。特に回答者らは介護保険を使用しない健康な高齢者であるが、トイレ環境や導線への意識が高く、夜間の排泄などに配慮した避難所環境の整備を求めていることが分かった。

総じて女性高齢者のニーズを生かすためには、女性のプライバシーや衛生環境の確保が重要であることが見えてきた。

表2 避難所環境に対する意識(回答者の7割以上が「とても重要である」を選択した内容)



調査のまとめ

本研究では、福島県相双地域沿岸部に居住する健康な高齢女性を対象に避難所環境に対する意識を調査した。回答者らは、繰り返しになるが、①男女別スペースや女性用品の配布など女性への配慮、②トイレや寝具などの加齢による身体的および生理的な変化への配慮、③衛生や感染予防を重要だと感じており、避難所では開設初期からこれらの環境の整備が重要であることが導き出された。

本調査で出会った対象者は、地域で通いの場や介護予防の活動に自主的に取り組む健康な女性高齢者であり、東日本大震災による津波被害や原子力災害の経験から避難所環境に高い関心を有している印象であった。彼女らの活動や経験を地域の貴重な資源と捉えて、地域防災への参画や、避難所の運営者としての役割が期待できるかもしれない。とはいえ、同時に、女性として高齢者として安心して避難所生活を送るための配慮も不可欠であることを忘れてはならない。

本研究調査に回答いただいた福島県相双地域の住民の皆様、調査にご協力いただいた地方自治体の職員の皆様に感謝申し上げます。調査の全文は報告書をご覧ください。

※報告書について、詳しくはセンターホームページをご覧ください。



Books <当センター図書室所蔵の>「特集」に関する「オススメ本」

『災害女性学をつくる』

浅野富美枝・天童睦子/編著 生活思想社 2021年

この本は「女性と災害」に関する問題に着目した入門書です。過去に日本でおこった大規模災害で女性がおかれてきた状況、東日本大震災・熊本地震発生時の被害者女性や子どもたちに対する人道的支援の事例などを振り返り、様々な立場の視点から課題を提起し論じます。第5章では東日本大震災時の当センターでおこなった取り組みについても紹介されています。ぜひご覧ください。



『「明るい未来」を子どもたちに 原子力に未来を夢見た町に生きて』

豊田直巳/写真・文 農山漁村文化協会 2020年

著者は東日本大震災・原発事故の翌日から取材を重ね、写真や映像を通して福島県内の被災地の様子を発信しています。この写真絵本では東日本大震災から10年近くを経た双葉町の様子を、震災後避難された住民の方の証言とともに記録しています。明るい未来を夢見た町が原発事故によって変化するすがたを、忘れてはならない歴史として次世代に伝える1冊となっています。



問い合わせ 福島県男女共生センター図書室 ☎0243-23-8308 開館時間 9時～20時 (休館日前日は17時、休館日は月曜日)



事業レポート 令和5年度 ダイバーシティ理解促進事業講演会

「性の多様性を「地方」で考える」

講師：前川 直哉 氏

(福島大学教育推進機構高等教育企画室准教授、一般社団法人ふくしま学びのネットワーク理事・事務局長)

日時：令和5年6月18日(日)10:30～12:00 会場：福島県男女共生センター(対面及びオンライン開催)

はじめに、性的マイノリティとは何か、日本や海外における性的マイノリティの状況についてご説明いただきました。また、性的マイノリティの団体の活動について触れ、家族や顔見知りのいる「地元」で活動する困難があることから、マイノリティの方の声に耳を傾け、違いを歓迎し、認め合うことが大切であるとお話いただきました。



講演会の様子

参加者の方の感想

- 「地縁」、「血縁のプレッシャー」という言葉から、地方ならではの生きづらさを知りました。「地元」が安心できる場所になるということは、ダイバーシティ実現の近道だと感じました。
- 誰もが楽しく幸せに、生きやすい世の中になるために、自分も他者も大切にしよう意識して過ごしたいです。

※未来館NEWS82～84号に、前川直哉先生コラム「福島から考える多様な性」を掲載しています。詳しくはこちらをご覧ください。



## みんなのふくしま ～福島県内市町村男女共同参画の取り組み紹介～

福島県内の市町村の男女共同参画の取り組みについて、担当されている職員の方にご紹介いただきます。今回は、「会津若松市」、「石川町」です。

### 会津若松市

ご紹介くださった方:

会津若松市役所企画調整課協働・男女参画室

上田 博一さん

会津若松市は「第5次会津若松市男女共同参画推進プラン～多様な生き方を互いに認め合い 生きがいを持って自分らしく 安心して暮らせる社会へ～」に基づき、様々な施策を推進しています。

その中でも特に、三つのコンセプトに重点を置いて取り組んでいます。

一つ目は、「次代を担う子どもたちへの期待」です。小学校5・6年生を対象に、男女平等について考える「子ども人生講座」の実施や、小中学生を対象に夏休み期間中に実施する「男女平等に関する作文コンクール」など、子どもたちへの意識づくりを図りながら、保護者などの身近な大人への意識の広がりにもつながるよう取り組んでいます。

二つ目は、「身近な“気づき”を大切に」です。市のホームページや市政だより、ラジオ放送や情報メールマガジンなど、多様な媒体による分かりやすい広報・啓発や出前講座の実施などを通して、身近なところからの“気づき”を促す施策を推進しています。

三つ目は、女性活躍推進法の視点です。働く女性や働くことを希望しながら仕事に就くことができずにいる女性が、それぞれの個性や能力を生かし、多様な働き方ができるよう、女性のエンパワーメントを高める「働き女子のためのワーク・ライフ・デザイン講座」や、事業所の方を対象とした「ワーク・ライフ・バランス イクボスセミナー」の開催など、女性活躍推進法の視点からも取り組みを進めています。

令和5年度は、現行のプランの計画期間満了にあたり、意識調査や市民ワークショップなどを通じて、市民の皆様のお声を頂きながら、次期プランを策定しているところです。

今後も、市・市民・事業者等、それぞれが主体となりながら、相互に連携して、男女共同参画社会づくりを進められるよう取り組んでいきます。



▲令和5年度 男女共同参画市民ワークショップの様子

### 石川町

ご紹介くださった方:

石川町教育委員会生涯学習課生涯学習係

下山田 航さん

石川町では、「いしかわまち男女共同参画プラン」に基づき、「ともに認め合い、支え合う社会へ」を基本理念として、様々な活動を行っております。

その事業の一環として、男女共同参画講座「夫婦の本音～〇〇家作戦会議～」を昨年9月25日に開催し、「本音で話せる魔法のシート」や「見えない家事リスト」などを使って家事の分担・育児について話し合いを行い、お互いの思いを知るいい機会となりました。

また2月18日には「家事シェア講座 男性のための料理教室」を開催し、あったかふくしま観光交流大使としても活躍されている料理家の本田よう一氏を講師として迎え、石川町の食材を使っ

た家族に喜ばれるメニューとして「豚の生姜焼き」、「鮭の照り煮」、「いちごのトライフル」を作りました。その他にも、パープルライトアップや川柳コンクールも実施しており、積極的に町民への啓発活動を行っております。

今後も、男女共同参画の推進にあたり、国や県、他の自治体等との情報交換などにより効果的な施策の推進を図り、町民の皆様にも男女共同参画の重要性を伝えていきたいと思っております。



▲令和4年度 男女共同参画講座の様子



▲令和4年度 家事シェア講座の様子

# 未来館フェスティバル 2023

令和5年9月2日(土)

今年度は、未来館フェスティバルを対面で開催いたします。シンボルイベントをはじめ、県民参加企画や交流会の開催も予定しておりますので、皆様のご来館をお待ちしております。

## ジェーン・スーさん講演会

### ●シンボルイベント

14時00分～15時30分

### 「私の居場所のを見つけ方」

コラムニスト・ラジオパーソナリティのジェーン・スーさんに、これからの人生を自分に自信を持って生きていくことができるよう、これまでのご経験や、自分の居場所を作ってきた女性たちのそれぞれの生き方や共通点などについて、お話をさせていただきます。(事前申込必要。定員(400名)に達し次第、受付終了。)

## 県民のみなさんによる自主企画

### ●県民参加企画

9時30分～15時30分

### 「県民参加企画」開催

県内で活動するみなさんの活動紹介やワークショップなどを行います。

出展団体名

NPO法人シャローム

福島人権擁護委員協議会二本松市部会

NPO法人ビーンズふくしま・みんなの家セカンド

Meets福島futures

福島県金融広報委員会

福島県国際女性教育振興会

(令和5年8月3日現在)

### ●交流会

16時15分～17時15分



自分の活動について話し、色々な取り組みを聞いて交流を深めませんか?本年度はフェスティバルに出展された皆様の、今後のさらなる活動の参考やネットワークづくりのために実施していた「交流会」を、4年ぶりに対面で開催します!参加無料、お茶とお菓子つきです。

お問い合わせ・お申込み  
福島県男女共生センター

事業課 | 電話0243-23-8304  
メール fukushimagec@gmail.com

# ほつとひと息

～相談室から～

相談室では10代～80代の方まで年齢や性別、地域を問わずに様々な方から、家族・夫婦・友人・学校・職場・地域等での悩み、女性・男性・LGBTQの生きづらさ、配偶者・恋人からの暴力(DV)の相談等、幅広く相談をお受けしています。

「どこに相談すればいいかわからない」「愚痴になるけど…」 「上手く話せない…」等不安と心配を抱え、緊張しながらも勇気を出して電話を掛けてきて下さる方が殆どです。

悩みは人それぞれ、皆違うし大小ありません。“こんな事ぐらいで”と抱え込み過ぎずに、『話すこと』で、悩みが少し整理でき気持ち楽になるかもしれません。

前を向いていくために、今出来ることを、一緒に考えていきませんか。お電話お待ちしております。

## 相談室

電話番号 0243-23-8320

開設時間: 9時～12時・13時～16時

[水曜日] 13時～17時・18時～20時

- 一般相談(電話・面接・予約制)
- 専門相談(完全予約制・面接)
  - 法律相談(主に第3水曜日)
  - 女性のためのカウンセリング(主に第1・3金曜日)
  - 女性のための生活設計相談(偶数月第2土曜日)
- 男性相談員による相談(火曜日17時～20時電話のみ)



相談無料・秘密厳守



アンケートにご協力ください。



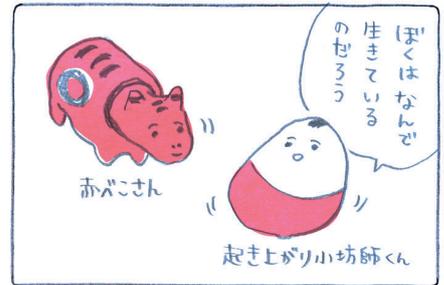
広報誌「未来館NEWS」では、よりよい紙面づくりのため、アンケートを実施しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、Googleフォームにてお受けしています。



アンケートはこちら→

イラストレーター: ico. みんなさんね

民芸誌NEO



表紙イラスト&4コマ漫画作者

## ico.さんの紹介

「未来館NEWSは、自分・社会・未来と向き合う時間をくれる冊子です。表紙と4コマは、そんな時間に寄り添うような作品を目指しています。」

PROFILER  
1985年宮城県名取市生まれ、福島県福島市在住。  
女性誌や企業広告をメインに、自治体の観光PRのデザインやイラストも手掛ける。福島市防災士の会会員。防災啓発をイラストで伝える。

講演や問い合わせはHPへ  
<http://icollection.me/>

当センターに対するご意見・ご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

福島県男女共生センター(女と男の未来館)

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL:0243-23-8301(代) FAX:0243-23-8312

<https://www.f-miraikan.or.jp>



Twitter



Instagram

未来館  
NEWS

2023 SUMMER  
VOL.

85